
モンスターハンター 2 ~辺境警備隊NERV~

RAGUNAROKU

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスターハンター2～辺境警備隊NERV～

【Zコード】

N7326D

【作者名】

RAGUNAROKU

【あらすじ】

塔に捨てられた小さな赤ん坊。この子は元気良くすくすく育ち、いつかは父親を超えるハンターになりたいと思っている。この子を巡っての争奪戦がいま、始まる！！（爆）新世紀エヴァンゲリオンとモンスターハンター2dossのコラボレーション小説。ご覧ください。

プロローグ

雲を突き抜けて、天へと聳える遠い時代の遺物。

『塔』その最上階に位置している。

ここには、古龍と呼ばれる危険なモンスターが舞い降りる場所と化していた。

「カイザー隊長、どうしたんですか？」

ナナ・テスカトリを倒した後、剥ぎ取り最中に手を止めたクシャナシリーズ（剣士系）で見を固めた男性隊長・カイザー・エンヴェルトを見上げる、ギルドガーデスーツ蒼シリーズで身を固めた男性隊員。

「……いや、赤ん坊の泣き声がしたんですね」

その声は、若く、クールなものだつた。

「赤ん坊？ そんな馬鹿な、第一、ここは古龍が出現する場所なんですよ、祖龍もたまに現れますけど」

ぎやーーーほんーーーほんぎやあーーーほんぎや

あーーほんぎやあーー

「……」

カイザーは、黙つて塔の端っこにある古の瓦礫に近付く、すると、そこには……

白い布に包まれた、白銀の髪と紫色の瞳、そして、白い肌を持つ小さな赤ん坊が泣いて居た。

男性隊員も近付いてくると、信じられないと言つて赤ん坊を見る。
「なつ、何故なんですか？」こんな赤ん坊がこんなところに居るなんて

「…恐らく捨てられたのだな」この塔に

カイザーは、そう言つた後、赤ん坊を抱き上げる。すると、赤ん坊は泣き止み、カイザーを見上げる。そして、笑顔になった。

キヤツキヤー！キヤツキヤー！

「…………可愛いですね」

「…こんな可愛い子供を捨てるとは」

「許せん（ない）……」

こんなにプリティイ（死語？）な、赤ん坊を捨てた親を見てみたい、そして、斬り殺しにしたい。（をひ）

と内心呟き、黒いオーラを醸し出す二人。

赤ん坊は、そんなオーラを全く感じずにキヤツキヤーと笑うだけだった。

こりや、大物になれるぞ。

「取り敢えず、『辺境警備隊NERV』本部に向かうぞ」

「了解！」

と、塔を降りて行った。

これが後に『月光の狩人』ムーンライトオブハンターと呼ばれるこことを、彼らは知らない。

プロローグ（後書き）

『辺境警備隊NERV』

5年前、研究所ゲヒルンとして古龍を調査していたが。突如、警備隊として生まれ変わってしまった。

その理由は、未だ不明。

勿論、ここには、ハンターが受けけるクエストも多くある。よつて、辺境警備隊NERVに立ち寄るハンターも多く見かける。しかし、殆どのレベルがハード・G級クエストである。

「シ・けど、殆どあなたの作品って、エヴァばかりじゃん」シンジ、どしたの？

「シ・他の一作品もまだ、完結していないんだからさ、まず先にそつちやれば？」

思い浮かばないんだよ、と言つても、この先どうすれば良いか考てる途中。

「シ・取り敢えず頑張りなよ」
おづ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7326d/>

モンスターハンター2～辺境警備隊NERV～

2010年10月15日01時22分発行